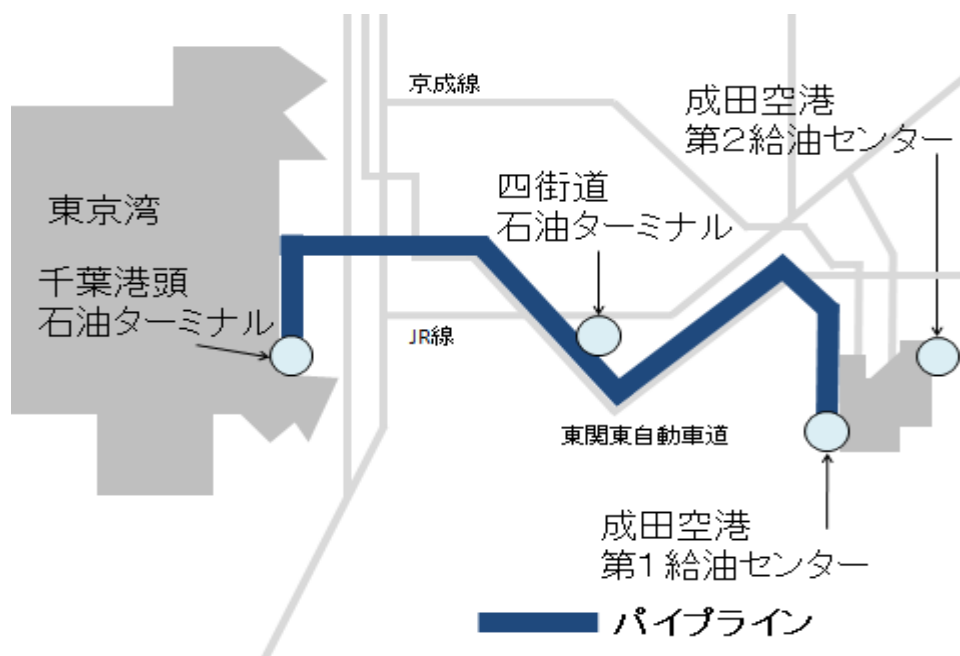


2013年8月5日

～ おかげさまでパイプライン供用30周年 ～

成田空港の航空燃料パイプラインは、本年8月8日に供用開始から30周年を迎えます



航空燃料は、成田空港が内陸部に位置しているため、千葉港から47kmに及ぶパイプラインにより輸送されています。

成田空港の航空燃料パイプラインは、成田空港の開港から5年後、1983年8月8日に供用を開始しました。それまでの間、航空燃料は鉄道による暫定輸送を行い、給油制限を余儀なくされていましたが、パイプライン供用開始以降は送油能力が大幅に増大し、航空機発着回数の増加に順次対応が可能となりました。

その後も増大する航空需要に合わせて、1996年4月には四街道石油ターミナルの設置、2003年4月には千葉港頭石油ターミナルの新タンク増設、2004年4月には第2給油センターの建設など施設の拡充を図ってまいりました。

そして本年の7月には、開港以来の累積給油量が1億5千万KL、給油した航空機は230万機に達しております。

NAAは、今後の航空需要に応えるため、安全を最優先に航空燃料の安定供給に努めてまいります。